

令和3年度 茨城県立農業大学校評価表

重点目標Ⅲ 【 進路指導の充実 】

1 現状

- ◎ 進路指導担当者及びクラス担任が学生の希望に沿った相談指導（就農、就職、進学）を行っている。
- ◎ 過去5年間の平均就農率は54.2%である。また、進路決定率は98.1%である。

<過去5年間の就農率> H28年度：50.7%、H29年度：43.3%、H30年度：62.1%、元年度：63.1%、R2年度：51.6%

2 課題

学生の就農率及び進路決定率の向上を図る。

3 評価項目別の評価及び実績・課題等

(1) 就農率

達成度	概要	関係者評価委員会からのコメント(全般)	評価基準(達成度)			
B	プレ農業人フェスタをはじめとした「就農意識を高めるための意見交換会等の実施」や求人情報の提供などの「農林振興公社、農業法人協会等の連携した雇用就農支援の充実」については、ほぼ具体的方策どおりに実施し、評価指標を概ね達成できた。さらに「市町村等と連携した就農支援の充実」においては、普及センターと連携した新たな取り組みを展開することができた。就農率は評価指標に届かなかったものの、昨年度並みの49.0%を確保できた。	目標には届かなかったものの、農林振興公社との連携による農業者と学生のマッチングや、筑西普及センター管内の産地との連携活動など、意欲的な取り組みを開始したこと評価できる。	A	100%以上の達成	D	40~59%の達成
			B	80~99%の達成	E	39%以下の達成
			C	60~79%の達成		

具体的方策及び評価指標	達成実績 ※【 】は前年度実績	次年度の課題と改善策	関係者評価委員会からのコメント
<p>以下の取組を通じて、就農率55%以上を目指す。</p> <p>1 就農意識を高めるための意見交換会等の実施 (1) 【充実】就農相談会等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営士等との意見交換会を開催し就農意識を醸成する。(3回：5、6、12月)</li> <li>・合同就農促進講座・就農相談会(プレ農業人フェスタ)や新農業人フェア、就農・就職セミナー等における、農業法人への理解促進及び就農希望者と農業法人とのマッチングを実施する(4回：6、7、7、12月)。</li> <li>・プレ農業人フェスタの法人との面談会が、長期派遣実習につながるよう開催時期を前倒しする。(6月下旬→6月上旬)</li> <li>・校外学習等現地研修会を実施する。(随時)</li> <li>・自家就農及び新規参入就農希望者に対する研修会を開催する。(1回：11月)</li> </ul>	<p>就農率49.0% 【R2：51.6%】</p> <p>1 就農意識を高めるための意見交換会等の実施 (1) 就農相談会等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営士等による講演及び意見交換会 4回 就農促進講座(農業部：2回5/24、12/13、園芸部：1回12/17) プレ農業人フェスタ：就農マッチング会(各部共通：6/3)</li> <li>・合同就農促進講座・就農相談会 3回 プレ農業人フェスタ(6/3：農業部82人、園芸部30人) 新農業人フェア(7/10：農業部3人、園芸部6人) 就農・就職セミナー(7/12：農業部67人)</li> <li>・プレ農業人フェスタ(農業法人等とマッチング会) 6/3【R2：6/25】 長期派遣実習へ繋がった学生数 12人【R2：3人】</li> <li>・農家及び農業法人等への校外学習実施回数 19回</li> <li>・新規就農時に係る情報提供および就農ビジョンを考える研修会(自家就農研修会(12/22：農業部12人))を実施</li> </ul>	<p>ほとんどの学生は、入学当初は就農を目標としているが、卒業時には就農以外を選択する学生もいる。このため、これらの学生に対し、在学中に進路希望を変更した理由等を確認することで就農率向上に役立てられるか検討し、就農率向上を図る。</p> <p>プレ農業人フェスタの運営方法などに関心がある高校職員の参加について検討する。</p>	<p>就農率向上を高めてほしい。 入学当初の理想と現実の違いやいろいろな選択肢に気付いたのではない。</p> <p>プレ農業人フェスタ開催時に高校職員の参加を検討してほしい。</p>

<p>(2) 【充実】 就農を希望する学生募集の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな就農事例をHPに掲載する。 (12月：3事例)</li> </ul> <p>2 市町村等（地域就農支援協議会※）と連携した就農支援の充実</p> <p>※地域の農業担い手確保・育成を支援するため、農業改良普及センター、市町村、農業委員会、JAなどで構成された組織。</p> <p>(1) 【継続】 体験研修等の情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規参入就農を希望する学生へ農場見学会の開催情報等を提供する。(2回：8・10月)</li> </ul> <p>(2) 【継続】 就農支援施策等に関する情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自家就農を希望する学生へ市町村の就農支援施策等に関する情報を提供する。(随時)</li> </ul> <p>3 農林振興公社、農業法人協会等と連携した雇用就農支援の充実</p> <p>(1) 【充実】 求人情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内農業法人の求人情報を学生に提供する。農林振興公社登録法人は、一覧票提示から詳細情報の提示に変更し、学生が見やすい掲示を実施し情報を提供する。(随時)</li> </ul> <p>(2) 【新規】 雇用就農希望者に対する支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林振興公社と連携し雇用就農希望者に対する個別相談会を新たに実施する。(5回：7、10、11、12、1月)</li> </ul> <p>(3) 【継続】 農家体験研修等を通じた就農支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生短期先進農業派遣実習（農業部及び園芸部：6月）、2年生長期先進農業派遣実習（農業部8～9月、園芸部10～11月）の実施による就農啓発の支援を行う。</li> <li>・就農に向けた体験研修の実施を支援する。(7～8月)</li> </ul> <p>4. 内部の情報共有と就農支援強化</p> <p>(1) 【継続】 情報共有と支援強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導委員会を開催し情報の共有化を図る。(3回/年)</li> </ul>	<p>(2) 就農を希望する学生募集の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就農事例掲載：2事例（雇用就農）掲載 (2～3月)</li> </ul> <p>2 市町村等（地域就農支援協議会）と連携した就農支援の充実</p> <p>(1) 体験研修等の情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・果樹農家（筑西市2戸、下妻市1戸）の体験研修等の情報を学生2人に提供(2回：7、12月)</li> </ul> <p>(2) 就農支援施策等に関する情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12/22の自家就農研修会で各市町村や新規就農に係る情報提供（12人）</li> </ul> <p>(3) 【新規】 筑西地域農業改良普及センター（就農支援協議会）との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用就農希望学生1名に対して、筑西市及び下妻市の果樹農家への見学や作業体験等を実施（8、12、1月）した結果、作業体験を実施した農家へ就農が決まった。</li> <li>・関係機関との果樹担い手確保対策打合を実施（10/14）した結果、果樹農家への長期派遣実習やマッチングイベントへの参加による連携強化につなげるため、下妻梨青年部における「長期派遣実習受入や雇用募集の有無等が分かる名簿」を整備することとなった。</li> </ul> <p>3 農林振興公社、農業法人協会等と連携した雇用就農支援の充実</p> <p>(1) 農業法人の求人情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内農業法人の求人情報を、校内掲示板に掲載（随時更新）。新たに、①掲示スペース拡大、②地域別に掲載、③一覧掲示から詳細情報掲示に変更した。</li> </ul> <p>(2) 雇用就農希望者に対する支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林振興公社と連携した個別相談会の実施 4回：24人（7/12：9人、11/18：7人(研究科1年2名含)、11/24：5人、12/17：3人)</li> </ul> <p>(3) 農家体験研修等を通じた就農支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生 先進農業派遣実習（5日間） 農業部：6/7～6/11（44人）、園芸部：6/7～6/11（18人） 2年生 先進農業派遣実習（31日間） 農業部：9/27～10/27（34人）、園芸部：10/20～11/19（14人）</li> <li>・就農に向けた体験研修や法人見学等の実施 2年生19人（農業部14人、園芸部5人）</li> </ul> <p>4. 内部の情報共有と就農支援強化</p> <p>(1) 情報共有と支援強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導委員会の開催 (2回：6/22、12/1)</li> </ul>	<p>執筆依頼済みの2事例（親元就農、新規参入）について、早期掲載を行う。</p> <p>担い手が不足している産地等との連携を、強化していく必要がある。</p> <p>まずは、現在連携を進めている筑西普及センター管内の産地とのマッチング（マッチング会への参加や長期派遣実習等）を進め、同様な産地が他にもあれば連携を増やしていく。</p> <p>農林振興公社と連携した相談会を実施し、学生の希望に合った農業法人とのマッチングを進める。</p> <p>また、相談会後は、個別のマッチング結果を確認把握し、随時、適正なアドバイスができるように進捗管理を徹底する。</p>
---	--	--

(2) 進路決定率

達成度	概要	関係者評価委員会からのコメント	評価基準 (達成度)			
A	三者面談や進路希望アンケートを踏まえ、学生それぞれの希望に沿った求人情報の提供やマッチング会等のセミナーを開催するとともに、進路未決定者に対して個別相談会を実施した。これらの各種支援の結果、進路決定率は評価指標の94%以上を達成できた。	先生方の努力が見える。さらに進路決定率を高めてほしい。	A	100%以上の達成	D	40~59%の達成
			B	80~99%の達成	E	39%以下の達成
			C	60~79%の達成		

具体的方策及び評価指標	達成実績 ※【 】は前年度実績	次年度の課題と改善策	関係者評価委員会からのコメント
<p>以下の取組を通じて進路決定率94%以上を目指す。</p> <p>1 農業法人を含む就職希望者への求人情報の提供 (1) 【継続】 求人情報の提供 ・求人企業への確認及びインターネット情報の収集により、学生が希望する業種の求人情報を提供する(随時)。</p> <p>2 進路指導及び就職等支セミナーの実施 (1) 【充実】 保護者との三者面談及び懇談会等の実施 農業部：1年生7月、2年生5~6月 園芸部：1年生7月、2年生10月 進路希望調査：2回(4、10月)</p> <p>(2) 【充実】 就農・就職進路進徳調査の実施 ・就農・就職進路進徳調査を毎月実施(6月~)し、学生の進路進捗動向を把握し、適切な進路指導を実施する。</p> <p>(3) 【充実】 企業等とのマッチング会の開催 ・ハローワークによる就職セミナーや当校に求人のある企業等とのマッチング会、就農・就職支援セミナーを開催する。(3回：6、7、11月)</p> <p>(4) 【充実】 個別相談会の実施 ・進路未確定者への個別相談を新たに実施する。(随時)</p> <p>3 1年生を対象とした就職セミナーや研修会等の実施 (1) 【継続】 1年生への就職セミナーの開催及び進路希望の把握 ・進路決定の早期化を図るため、就職セミナー(2回：7、1月)、進路希望調査(2回：4、10月)、就職が決定した2年生の助言による研修会を実施する。(1回：2月)。</p> <p>4 次年度以降に向けた就職等試験の情報収集 (1) 【継続】 就職試験の情報収集 ・就職者及び進学内定者から試験内容等の情報を受領し、次年度以降の指導に活用する(随時)。</p>	<p>進路決定率95.9%(R4.2.22現在)。残り1名が就活中である。【R2：93.5%】</p> <p>1 農業法人を含む就職希望者への求人情報の提供 (1) 求人情報の提供 ・当校に求人のある農業法人等や関連企業等の情報を掲示板へ随時掲示した。(12月の求人数：1,327人)</p> <p>2 進路指導及び就職等支セミナーの実施 (1) 保護者との三者面談及び懇談会等の実施 ・二者又は三者面談：実施数107/111人(うち保護者同伴97人) 農業部1年生：7~11月(40人実施、うち保護者同伴39人、未実施4人) 2年生：6~7月(35人実施、うち保護者同伴26人) 園芸部1年生：7月(18人実施、うち保護者同伴18人) 2年生：10月(14人実施、うち保護者同伴14人) 進路希望調査 1年生：2回(4、12月) 2年生：3回(4、10、12月)</p> <p>(2) 就農・就職進路進徳調査の実施 ・進路進捗状況把握(6月~毎月)</p> <p>(3) 企業等とのマッチング会の開催 ・就農就職支援セミナー2回(農業部) ハローワークによる就職セミナーの実施(6/3：農業部2年生33人) 求人のある企業等とのマッチング会の開催(7/12：農業部67人)</p> <p>(4) 個別相談会の実施 ・農林振興公社と連携した進路未決定者への個別相談会(農業法人就農志向者) 11/18(7人研究科1年2名含む)、11/24(5人)、12/17(3人)</p> <p>3 1年生を対象とした就職セミナーや研修会等の実施 (1) 1年生への就職セミナーの開催及び進路希望の把握 ・プレ農業人フェスタ及び就農・就職セミナーの実施2回(6/3：農業部44人・園芸部12人)、(7/12：農業部48人) ・進路希望調査：2回(4、12月)</p> <p>4 次年度以降に向けた就職等試験の情報収集 (1) 就職試験の情報収集 ・7事例</p>	<p>就活開始時期が遅く、また活動に意欲的でない学生が見受けられるため、学生の意識を活性化させる。</p> <p>進路決定者の掲示方法について、決定者と未決定者が分かるように掲示し、学生の進路に関する意識を醸成させる。</p> <p>農業部で実施している企業等とのマッチング会については、進路が決まっていない学生の状況に応じて10月以降(10~11月)の開催を検討する。さらに、園芸部への参加呼びかけ等を行う。</p> <p>1年生の時から進路先を意識させ、早目の就活を促すため、ハローワーク等による就職セミナーを年初(1~2月)に実施し、2年生で受講する「ビジネスマナーに関する授業」及び「ハローワークと連携した特別講義」につなげる。</p>	<p>進路決定率を高めてほしい。</p> <p>社会人1年生になるのに合わせ、心構えや社会の常識を伝える授業が必要。</p>